

令和2年10月3日(土)

所在地：愛知県岩倉市川井町 地内
調査原因：川井野寄地区工業用地開発事業
発注者：岩倉市（担当：岩倉市教育委員会生涯学習課）
調査機関：株式会社アーキジオ 中日本支店
調査期間：令和元年9月から令和3年3月
調査面積：約4.3ha（令和元年度：1.7ha、令和2年度：2.6ha）

1 はじめに

岩倉市では、企業庁と共同で取り組んでいる川井野寄地区工業用地の開発事業に伴い、昨年の9月より発掘調査を行っています。

また、今回の発掘調査に先立ち、開発事業地ではこれまでに愛知県教育委員会と岩倉市教育委員会が協力して、3回（平成28・29年度：試掘調査、平成30年度：遺跡範囲確認調査）の事前調査を行いました。

今回の現地説明会では、令和2年2月15日の現地説明会以降で判明した調査成果について説明します。

2 遺跡の概要

（1）地理的環境

下田南遺跡が所在する岩倉市は、木曽川によって形成された沖積平野（ちゅせきへいや）上の濃尾平野に立地する自然堤防帯に位置します。

市北東部の井上町が標高約12m、南西部の野寄町は標高約7mを測り、市域の土地は北東から南西方向に向かって低くなります。このように緩やかに傾斜する市域の中央を一級河川の五条川が南流しています。

また、下田南遺跡は、南流してきた五条川が大山寺町で西に大曲した約2km地点の右岸に広がる広大な田園地帯の中に所在します。

（2）歴史的環境

下田南遺跡の周辺には、縄文から弥生時代の集落や、古墳時代後期の円墳などが確認された権現山遺跡（岩倉市）をはじめ、弥生時代から古代にかけての水田遺構が確認された伝法寺野田遺跡（一宮市）、古代の寺院跡で礎石や瓦が出土した薬師堂廃寺跡（岩倉市）などがあります。これらは、古くからこの地域一帯に人々の生活が営まれていた事を証明する遺跡といえます。



下田南遺跡周辺の遺跡

3 これまでの発掘調査成果

(1) 遺構について

遺跡を含む開発事業地と周辺地区一帯は、昭和 47 年に土地改良事業が施工され、この影響で遺跡全域にわたり遺構の依存状況は良好とはいえませんでした。古代から中世にかけての遺構を確認することができました。

古代の遺構は、竪穴建物(たてあなたてもの)をはじめ掘立柱建物(ほったてばしらたてもの)、道路状遺構などが見つかっています。

竪穴建物は、調査区 1 c 区、1 d 区を中心に 20 棟以上が見つかっています。竪穴は全て隅丸方形(すみまるほうけい)で、一辺が 5～7 m、建物内の北や北西側に竈(かまど)を配しています。また、一部の建物からは、土器以外に鉄製品の製造を思わせる遺物が出土していることから、居住以外にも小規模な工房として使用されていたと推測します。

特筆すべき遺構としては、調査区 1 d 区より一辺が 13m を有する大型の竪穴建物 1 棟があります。確認できた柱穴や礎板から、建物の高さは 10m を超えると思われます。建物内部の構造・用途は、中世の溝や土坑によって壊されていて不明です。

掘立柱建物は、調査区 1 b 区、1 c 区、1 d 区、R a 区などから 20 棟以上見つかっています。建物は、4 本柱の正方形、6 本柱の長方形で、1 間(けん)ごとにくまなく格子状に柱を立てた総柱構造の建物などがあります。また、柱が沈まないよう柱穴の底に礎板・礎石を設置した建物も見つかっています。

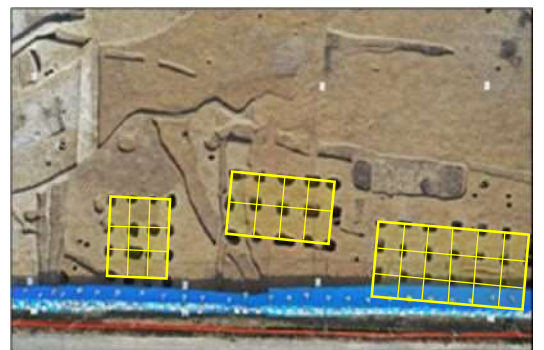
1 b 区と R a 区で出土した倉庫として使用されていたと考えられる総柱構造の建物群は、集荷場と思われる広場を有し、この広場を囲むように「L」字に建物が配置されています。そして、建物群と広場は地盤改良された上に造られていたことが判明しました。

古代の道路状遺構は、遺跡の東端の調査区 1 e 区より 1 条見つかっています。道路の方角は、東西方向に延び、道路両側には、側溝機能を持つ小規模で狭長な溝が配置されています。道路幅は、側溝溝の中心軸間で 4.2 m(約 14 尺)あります。なお、この道路を東へ延ばすと薬師堂廃寺跡に繋がります。

中世の遺構としては、下田南遺跡の北西方向から南東方向へ蛇行しながら横断する 3 条の溝状遺構が見つかっています。



大型竪穴建物(1 d 区)



総柱構造の建物群(1 b 区)

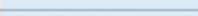


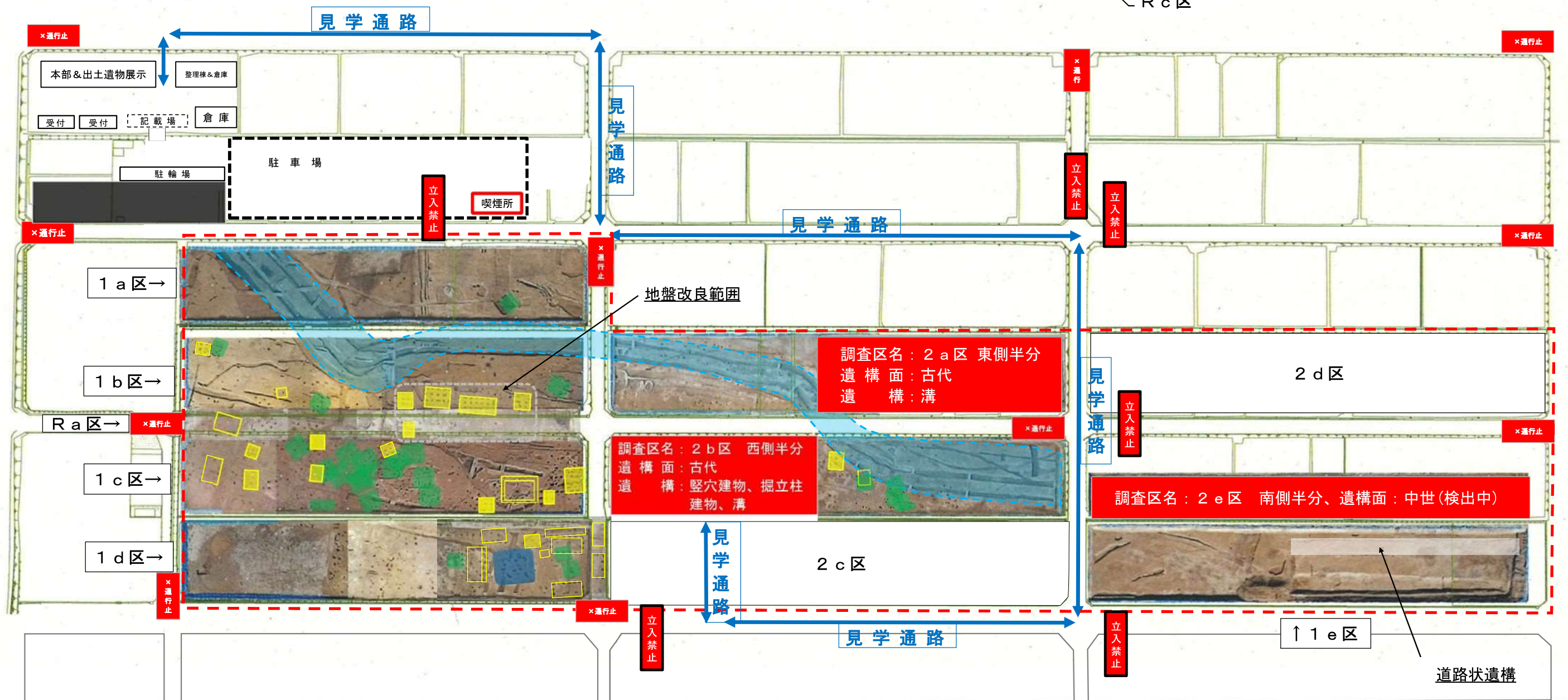
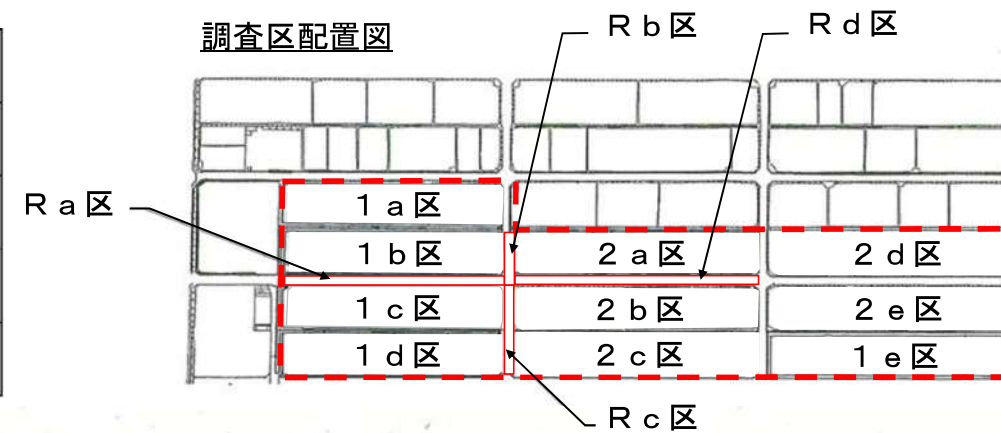
道路状遺構(1 e 区) 西から

(2) 出土遺物について

古代の遺物は、官人に関する円面硯(えんめんけん)、転用硯(てんようけん)をはじめ、須恵器(すえき)、灰釉(かいゆう)陶器、土師質土器(はじしつどき)などが出土しています。土器以外では、鉄滓(てっさい)、砥石(といし)などがあります。また、地鎮祭(ぢちんさい)や祭祀(さいし)等に関連する遺物として、勾玉(まがたま)、臼玉(うすだま)、土馬(どば)の破片が出土しています。そして、中世の遺物は、山茶碗、土師質土器、焼締(やきしめ)陶器、施釉(せゆう)陶器などが出土しています。

下田南遺跡平面図

凡		例	
	遺跡範囲		総柱構造建物
	竪穴建物 (たてあなたてもの)		道路状遺構
	大型竪穴建物		地盤改良範囲
	掘立柱建物 (ほったてばしらたてもの)		中世の溝 (3条分)



$S = 1/1200$ 

2a区 ー古代(飛鳥～奈良時代)ー

2a区では中世と古代の2つの遺構面があります。古代の遺構としては、溝が3条、土坑が2基、不明遺構が4基見つっています。特に北西から南東方向に伸びる長い溝(166号溝)は、古代の区画溝と考えられ重要です。

この区画溝を中心に須恵器の高坏や甕、土師器の甕などが数多く出土しています。



166号溝出土の土器(2a区)

古代の166号溝全景(2a区) 西から

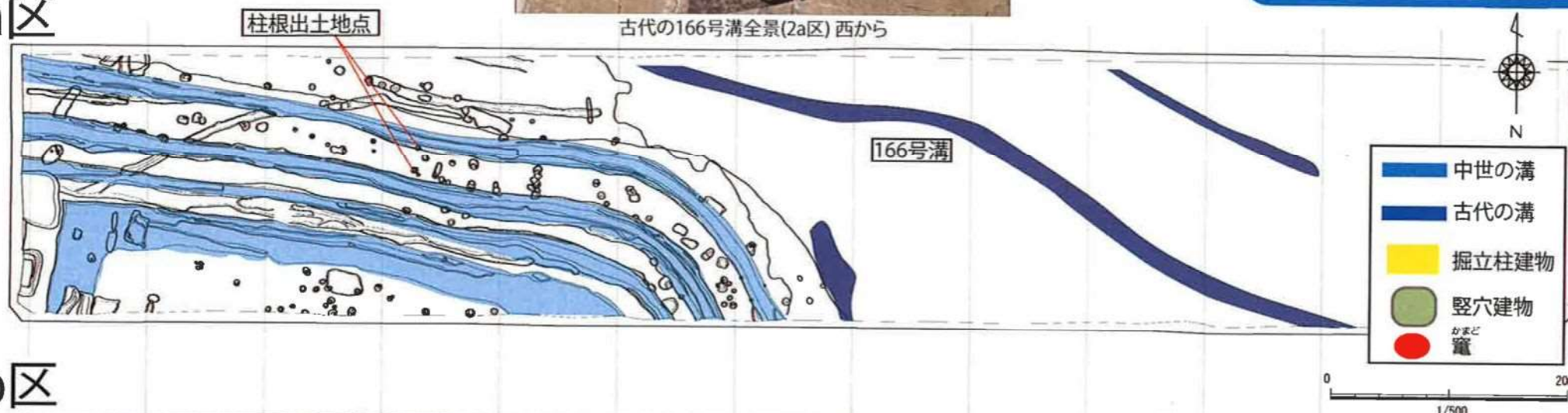
2a区 ー中世(鎌倉～室町時代)ー

中世の遺構としては、大きな溝が4条、小さな溝が18条、合計22条の溝と土坑などが見つかりました。主な遺物は土器で、山茶碗、灰釉陶器のほかに須恵器の坏身や坏蓋、土師器の甕などの古代の遺物も出土しました。柱穴からは、柱根が出土したものもあります。



中世の大溝完掘状況(2a区) 南東から

2a区



2b区



5号溝内 27号土坑出土の土器群(2b区) 南から

※官衙・役所のこと

2b区 ー竪穴建物(たてあなてもの)ー

今回の調査区からは竪穴建物が14棟以上見つっています。これらは同じ場所で重なって見つっており、大きな時期差もないことから短期間で何度も建て替えられていたことがわかっています。こういった状況は1c区でも同様に確認されており、主に1c区から2b区にかけての範囲で飛鳥時代頃に集落が営まれていたようです。

竪穴建物は、調査区の中央より西側で多数確認できますが、東側では全く確認できず、このあたりが集落(居住域)の東端であったと思われます。

確認されている竪穴建物は全て隅丸方形で、一辺の長さ約5m程度のものから8m程のものまで様々です。

竪穴建物にはおおむね北の方角に竈が造られています。竈の上部は削平されて無くなってしまっていますが、燃焼部からは炭や焼土と共に、捨て置かれた甕などの土器が見つっています。



竪穴建物A(2b区) 西から



竪穴建物B内竈出土土器(2b区)



建物A(総柱)(2b区) 南から



建物A柱穴出土礎板(2b区)

2b区 ー掘立柱建物(ほったてばしらてもの)ー

2b区からは掘立柱建物が現在2棟確認されています。掘立柱建物とは、地面に穴を掘り、そこに柱を立てて建てられた建物の総称です。飛鳥時代や奈良時代の一般的な住居は竪穴建物であり、掘立柱建物は、宮殿や官衙などにおいて高床倉庫などとして使用されていた建物でした。

前年度の調査でも1b区から1d区にかけて多数の掘立柱建物が見つっていましたが、その建物群が2b区まで広がるのがわかりました。建物Aと建物Bは総柱建物と呼ばれる、一間ごとにくまなく柱を立てた構造の建物で、倉庫として使われたと思われます。当遺跡の掘立柱建物の多くが総柱建物で、この2b区の中央あたりを東端として古代の倉庫群が広がっていたようです。

掘立柱建物Aの柱穴には礎板が残されているものもあり、耐久性を考えて建てられていたようです。また建物Bの柱穴の1つからは勾玉が1点出土しています。首飾り等の装飾品に使われた勾玉ですが、祭祀用として埋納されたのかもしれませんが。

2b区 ー古代の溝ー

2b区からは古代の溝状遺構がたくさん見つっています。

溝状遺構の多くは東西方向に掘られ、直線的なものや蛇行するものなど様々です。

その中でも2b区の北東角で確認された直角に折れ曲がった幅の広い溝(5号溝)は特徴的で、溝の中から多量の土器がまとめて置かれたような状態で見つっています。

2e 区の調査経過

2e区では現在、中世の遺構検出まで終了しています。2a区や2b区で見つかった溝と一連となる溝が検出されています。今後遺構の掘り下げを行います。

主要な出土遺物



1 山茶碗
2a 区<2号溝>
鎌倉時代(13世紀)



2 土馬の脚
2a 区<4号溝>
奈良時代(8世紀)



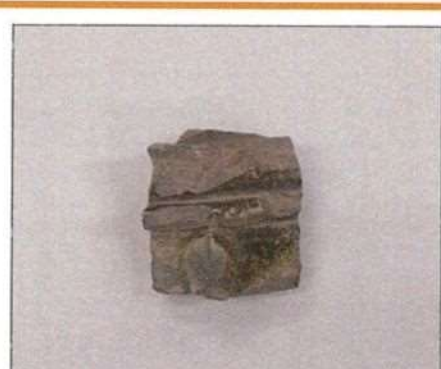
3 山茶碗 小皿
2a 区<2号溝>
鎌倉時代(13世紀)



5 須恵器 坏身
2a 区<平面清掃>
奈良時代(8世紀前半頃)



15 円面硯
1c 区<622号土坑>
飛鳥時代~奈良時代(7~8世紀)



16 円面硯
1c 区<98号柱穴・135号溝>
飛鳥時代~奈良時代(7~8世紀)



7 土師器 甕
2b 区<27号土坑>
飛鳥時代(7世紀頃)



8 須恵器 坏身
2b 区<27号土坑>
飛鳥時代(7世紀頃)



11 須恵器 坏蓋
2b 区<70号溝>
飛鳥時代~奈良時代(7~8世紀)



13 須恵器 瓶
2b 区<301号土坑>
飛鳥時代(7世紀頃)



22 土師器 甕
1b 区<151号溝>
奈良時代(8世紀前半頃)



12 勾玉
2b 区<278号柱穴>
飛鳥時代~奈良時代(7~8世紀)



17 紡錘車
1d 区<表土掘削>
飛鳥時代~奈良時代(7世紀~8世紀)



19 山茶碗(墨書)
1d 区<壁面>
室町時代(15世紀頃)



20 灰釉陶器 皿(墨書)
1d 区<89号溝>
平安時代(9世紀末頃~10世紀頃)



23 山茶碗(墨書)
2e 区<南壁>
鎌倉時代(13世紀)



18 円面硯
1d 区<表土掘削>
奈良時代(8世紀初頭~前半頃)

資料に掲載していない展示遺物

- 4. 須恵器 坏蓋 2a 区<遺構検出>飛鳥時代(7世紀前半頃)
- 6. 須恵器 坏身 2b 区<27号土坑>飛鳥時代(7世紀頃)
- 9. 須恵器 坏身 2b 区<27号土坑>飛鳥時代(7世紀頃)
- 10. 須恵器 坏蓋 2b 区<27号土坑>飛鳥時代(7世紀頃)
- 14. 須恵器 坏身 2b 区<301号土坑>飛鳥時代(7世紀頃)
- 21. 須恵器 短頸壺 1d 区<726号竪穴建物>
飛鳥時代~奈良時代(7世紀~8世紀頃)
- 24. 土師器 甕 2a-2 区<166号溝>奈良時代(8世紀):写真展示
- 26. 礎板 1d 区<829号柱穴>飛鳥時代~奈良時代(7世紀~8世紀頃)
:写真展示
- 27. 礎板 2b 区<142号柱穴>飛鳥時代~奈良時代(7世紀~8世紀頃)
:写真展示

- 2a 区
- 2b 区
- 1c 区
- 1d 区
- 1b 区
- 2e 区